

平成29年度 第2号

発行日 5月9日

発行者 校長 三浦恵子

年中だより 校訓「愛知・自治・敢為」 82名のみならず保護者の皆様へ

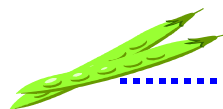
街角を彩っていたサツキの花も終わり、新緑の美しい風薫る5月もあっという間に過ぎ去ろうとしています。ゴールデンウィーク期間中、各部活の春季大会があり、勝敗はどうかあれ、牟岐中生の頑張りに感激しました。現状に満足することなくさらに上をめざし頑張ってください。

ゴールデンウィークも過ぎ、生徒たちは学年当初の緊張感から解放され、どの子も活気に満ちた学校生活を送れているようです。16日から始まる中間テスト、23日から2年生は修学旅行、25日から1年生は宿泊訓練、3年生は職場体験と行事が続きます。まずは「家庭学習の手引き」を参考にしながら、この1ヶ月間の学習の復習を、十分に行い中間テストに臨んでください。基礎基本の定着には、家庭での学習時間の確保と学習の仕方が大切になってきます。

保護者の皆様方もそっと後押ししていただけますようお願いいたします。



5月8日の朝会での話



5月のスタートにあたり、今日はインゲン豆の話をしていきます。インゲン豆は朝顔のようにツルを伸ばして大きくなっていきます。このインゲン豆のつるを、無理やり反対巻きにするとどうなるかという実験を名古屋大学の大学院で行いました。まず、インゲン豆を3つのタイプに分けました。1つ目(A)はインゲン豆のツルを自然のままに右巻きにしました。2つ目(B)はつるをひもでしばってまっすぐしました。3つ目(C)は同じようにひもで縛って左巻きにして育てました。みなさん、どうなったと思いますか。結果は収穫したサヤの数に明らかな差が出ました。(自然のままの)右巻きのAに比べて、真っすぐのBは1.5倍、左巻きのCは2倍も多かったという結果です。サヤの大きさや重さは三タイプともほぼ同じで、つるをいじって自然に逆らわせるほど収量が増えることがわかったのです。ある程度の緊張や試練・逆境を与えたほうがインゲン豆は数倍も強く育つことができるということがわかりました。人間もいっしょだと思います。毎日の生活には乗り越えなくてはならない緊張や試練がたくさんあります。が、インゲン豆の実験のように厳しい試練や緊張が自分を伸ばしてくれると思います。

連休も終わりました。これからが1学期の充実期です。行事もたくさんあります。嫌なことや辛いことを乗り越えた分だけ、自分が成長できるぞと自分を奮い立たせ、1学期の終わりには、たくさん成長できたことを喜べるように、自分を褒められるように、今日からともに頑張りましょう。

授業参観・PTA総会・学年部会 ご参加ありがとうございました

4月26日平日でお忙しいところ、たくさんの保護者のみなさんに生徒たちの様子を見ていただきました。



自転車冒険家 西川昌徳さん 来校

3年生に「僕が自転車で世界を旅する理由」という題でメッセージをもらいました。進路を考える上でとても良いお話でした。

